

アイテムアンケート 考察

1回目と2回目の結果を比較して

第1回目アンケートH19年7月、第2回目アンケートH20年2月

1. 家庭学習での活用状況

(1) 7月と2月との比較(1, 2年をのぞく)

○よく使っている割合が減少(23%→12%)

・7月当初は目新しさがあったと考える。

・6年生での人数が11人→3人に減少

・今年度後半は書き込みを多くしたため、できる部分をやるとその後は難しくて手のつかなかった児童もいたと思われる

○「よく使っている」と「たまに使っている」を合わせた割合が増加(85%→89%)

・使用方法がなれてきたからであろう。

○「よく使っている」児童が減少(23%→12%)

(2) ほとんど使っていない児童について(11%)

○日頃の学習内容が十分に身に付いていない児童が多いと思われる

・基礎的・基本的内容の徹底が必要であろう。

○与えられた課題のみをやる児童が多い。

・学習への意欲向上への手だてが必要である。

2. アイテムの問題は難しいですか

(1) 練習しよう

○「ややかんたん」「とてもかんたん」の割合が増加(80%→85%)

・アイテムの活用方法に慣れてきたと考える。

○3, 4, 5年の「やや難しい」の割合が高い。

○3年生では、「やや難しい」の割合が減少。

(2) 確かなものにしよう

○第1回目、第2回目のアンケートの結果大きな差はない。

(3) 力をつけよう

○「とても難しい」「やや難しい」の割合が増加。

・年度の後半は、計算等の技能面から抽象的な考えが増加したと考える。

・低学年はかんたんと考えている児童の割合が高い。

(4) 発展させよう

○「とても難しい」の割合が増加。

・問題の難易度が理解できてきたからかもしれない。

3. アイテムの問題をやってみておもしろいですか？

○「とてもおもしろい」「ややおもしろい」の割合が微減

・3, 5年が特に減少。

○低学年の多くは「とてもおもしろい」「ややおもしろい」の割合が高い

4. 昨年使っていたドリルとの比較。

○70%強の児童が「アイテム」の方がよいと答えている。

5. わからないところがあったらどのようにしていますか。

○そのままにしている児童が減少。

○答えを見て確認する児童が増加。

・高学年の割合が多い。

○友だちに聞いている児童も増加。

6. アイテムを使ってみて、考える力がついたと思いますか。

○「ついた」「すこしついた」と回答した児童が増加。(87%→96%)

7. アイテムはやりがいがありますか。

○「ある」「少しある」の児童の割合が96%

8. 昨年使っていたドリル(計算ドリル)との比較

○78%の児童がアイテムがよいと回答。

9. アイテムを使っていて、やりにくいと思う点は？(自由記述)

○計算ドリルがやりにくい。

○書き込みスペースがせまい。

○問題が難しい

○解説が詳しくない。

○冊子が大きい(持ち運びに不便。机に入れにくい。)

○カラーでない

○教科書の順番とアイテムの順番(掲載順)が違ってやりにくい。 等

成果

- ・全体的には導入してよかっただろう。
- ・考える力はついたであろう。

課題

- ・計算ドリルの扱い。
- ・基礎基本の徹底。
- ・学習意欲の向上。